

平成 27 年度第 5 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：2016 年 4 月 23 日（土）12：30～16：00

場所：大阪大学産業科学研究所・永井研究室、東京大学分子細胞生物学研究所本館 206
号室ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 18 名 出席理事 13 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	中村 春木	理事（副会長）	高橋 聡
理事（副会長）	永井 健治	理事	新井 宗仁
理事	石島 秋彦	理事	大上 雅史
理事	小松崎 民樹	理事	佐甲 靖志
理事	佐藤 竜馬	理事	寺沢 宏明
理事	根岸 瑠美	理事	野地 博行
理事	古谷 祐詞		

監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 有坂 文雄

オブザーバー：

欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	北尾 彰朗
平成 28 年度年会実行委員長	豊島 陽子
平成 29 年度年会実行委員長	山縣 ゆり子

陪席者：

学会事務局 向井 牧子

議長：代表理事（会長） 中村 春木

議事録作成者： 理事 佐藤 竜馬

理事 大上 雅史

報告事項および審議事項

報告事項：

1. 平成 28 年度年会準備状況 (豊島) 資料：報 1
2. 平成 29 年度年会準備状況 (山縣) 資料：報 2
3. 平成 30 年度年会準備状況 (中村) 資料：なし
4. 出版委員会報告 (永井) 資料：報 4
5. 科研費活動報告 (石渡) 資料：報 5
6. 第 5 回 BPPB 論文賞選考委員会報告 (石渡) 資料：なし
7. 広告について (石島・寺沢) 資料：報 7
8. 男女共同参画・若手支援委員会報告 (高橋) 資料：報 8
9. 男女共同参画学協会連絡報告 (高橋) 資料：報 9
10. 生物科学学会連合連絡会報告 (佐藤) 資料：報 10
11. IUPAB・ABA 関連報告 (野地・中村) 資料：なし
12. 賞・助成金推薦委員会報告 (永井) 資料：報 12
13. 特許の取り扱いに関する HP 修正報告 (古谷) 資料：報 13
14. 滞納 3 年以上の会員への督促結果報告 (古谷) 資料：報 14
15. 地区報告
 - 15-1) 北海道支部 (小松崎) 資料：なし
 - 15-2) 関東支部 (佐甲) 資料：報 15
 - 15-3) 中部支部 (古谷) 資料：なし

その他

審議事項：

1. 平成 29・30 年度会長候補の選出 (中村) 資料：議 1
2. 平成 28 年度事業計画 (案) (中村) 資料：議 2
3. 平成 28 年度予算 (案) (佐甲・寺沢) 資料：議 3
4. 出版委員会関連議題
 - 4-1) BPPB 編集委員会より無料キャンペーンについて (永井) 資料：議 4-1
 - 4-2) BPPB 編集委員会より欧文誌活性化に関する提案書 (石渡) 資料：議 4-2
 - 4-3) HP 委員会よりサーバー移設について (北尾) 資料：議 4-3
5. Application of Biophysics の HP 掲載について (永井) 資料：議 5
6. 男女共同参画若手支援関連議題
 - 6-1) 生物物理若手の会夏の学校援助金について (大上) 資料：議 6-1

7. 熊本地震で被災された研究者への支援について (中村) 資料：議 7
 8. 分子生物学会と生化学会との合同大会について (佐藤) 資料：議 8
 9. 日本光生物学協会招待講演・奨励賞候補者推薦について (永井) 資料：議 9
 10. 年会における国際交流促進について (中村) 資料：議 10
 11. 平成 28 年度総会シンポジウムについて (野地) 資料：なし
 12. 罰則規定 (除名) について (中村) 資料：議 12
 13. 定時社員総会議案について (中村) 資料：議 13
- ・定款の変更について (事務局・代議員の任期)

定足数の確認：

議事の経過の要領およびその結果：

理事会の審議に先立ち、会長より、定足数を満たしており、定款第六章第三十二条の規定により理事会が成立することが報告された。会長が議長に就き、開会を宣言し審議に入った。

報告事項：

1. 平成 28 年度年会準備状況 (豊島) 資料：報 1

豊島年会実行委員長から筑波年会準備状況について報告があった。

確定事項として年会の案内発送を 6 月初旬に行う。参加登録の受付を 6 月 20 日から 8 月 18 日まで、演題登録の受付を 6 月 20 日から 7 月 20 日までとする。10 月下旬にプログラム発送を行う。つくば観光コンベンション協会に申請していたコンベンション補助の額が 130 万円に確定した。その他、年会における支出・収入についての報告があった。シンポジウムの採択案について、一般から 22 件、共催から 9 件 (開催に際しての予算を年会からではなく各団体がもつ)、学会本部企画から 3 件、合計で 34 件のシンポジウムを開催する予定である。昨年のシンポジウムと今年のシンポジウムで連続して応募しているシンポジウムがあると考えられるが可能な限り考慮している。年会案内について、4 月中に一度年会案内をメールで発信し、6 月に再度紙媒体で発信する予定である。熊本震災を考慮し学生の参加費の免除を考えているが東北震災で被災した学生の参加費免除を今年も行うか。熊本震災で被災した学生のみ参加費の免除を行い、教職員の参加費の免除は行わない。東北震災で被災した学生の参加費免除は今年からは行わない。旅行会社にお申し送り宿泊先予約サービスを設けることが承認された。

2. 平成 29 年度年会準備状況 (山縣) 資料：報 2

山縣年会実行委員長より熊本震災についての現状報告があった。

来年の熊本年会を開催するかについての議論が必要である。視点は三つあり、熊本年会実行委

員の視点、年会開催における会場の視点、年会に参加する参加者の視点から分析しご意見を伺いたい。今後地震が収束し、被害拡大がないと仮定した場合は年会開催については問題がないか。会場の観点からは年会で使用する予定になっている建物は現状使用可能である。懇親会の会場は問題ない。宿泊施設については、地域によって被害状況が異なっているためすべて把握できていない。

熊本に所属している教職員が今後忙しくなると予想され、年会準備に時間を割けなくなる可能性がある。しかし、地域経済を考えると年会は開催したほうが良いとも考えるため以下の3つの場合を想定し準備を進める。

- A) 年会開催時期を岡山年会と入れ替えるなどの措置が考えられる。
- B) 来年は熊本、岡山以外の別の場所で開催する。
- C) 入れ替え等を行わず、予定通り熊本で開催する。

今後、岡山年会実行委員に年会開催時期の変更は可能か等を問い合わせるとともに、熊本や周辺地域の情報を集める。次回、6月の理事会で最終決定を行う。

3. 平成30年度年会準備状況（中村）資料：なし

中村代表より岡山年会準備状況について報告があった。

物理学会（岩手）の開催日が2018年9月21日から9月24日に確定したため、岡山年会の日程が2018年9月15日から9月17日になる予定。

4. 出版委員会報告（永井）資料：報4

永井出版委員長から出版委員会について報告があった。

邦文誌生物物理について、ダウンロード数が近年伸びている。Webからのダウンロードサービスを開始した当初、数十件だったものが現在1,000件程度に伸びている。BPPB誌について、前回の理事会（2016年2月）の時点で4件の投稿があったが、現在5件しか増えていない。

PubMedについては仮アップロードの状態であり、中西印刷でのチェックが終わり次第掲載する。BPPB誌の無料キャンペーンについて、開始時期はこれからすぐに行う。BPPB誌編集員の見直しについて、全員をEditorial Boardとしそのなかに、Editor in Chiefs、Associate Editors等を設ける。新たにFlorence Tama氏とJian-Ren Shen氏に就任を依頼し承諾された。

「特集号」「追悼号」について、現在7件を予定している。研究紹介ページについて、重要な内容の研究ページが抜けているため、次期分野別専門委員会に研究紹介をたいもらうように打診する。

5. 科研費活動報告（石渡）資料：報 5

石渡氏より科研費活動について報告があった。

科研費執行状況について、340 万円を使い切った。また、出版査読費用が予算を超えているが全体で 300 万円以内であれば問題ない。

6. 第 5 回 BPPB 論文賞選考委員会報告（石渡）資料：なし

石渡氏より第 5 回 BPPB 論文選考委員会について報告があった。

BPPB 誌の論文賞について、今年は 1 件、去年からの持ち越し 7 件の計 8 件から選ぶ。来年度は翌年に回る論文がなくなる可能性があるため推薦をお願いしたい。

7. 広告について（石島・寺沢）資料：報 7

石島氏より広告について報告があった。

広告費の減少が近年、減少傾向にある。冊子体がなくなり、電子書籍になったことなども原因として考えられるため、広告のありかとも今後考えていく必要がある。学会のホームページからのダウンロードは全ページ一括のダウンロードだが、J-Stage は部分ごとにダウンロード可能であり、そちらの利用率のほうが高いと思われる。BPPB 誌に広告を載せるのが解決法として良いのではないか。

8. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高橋）資料：報 8

高橋男女共同参画・若手支援委員長より男女共同参画・若手支援委員会について報告があった。

若手奨励賞について、若手奨励賞は本年度から発表を行った方にも講演賞を授与することとなった。若手奨励賞を一度受賞した方でも応募要件を満たしており、かつ研究内容が異なっていれば受賞資格を有する。学生発表賞の応募規定、ホームページ情報などの現状と今後について、各理事に確認していただき最終決定を行う。年会での男女共同参画シンポジウムについて、キャリア支援委員会で行う企画との住み分けや連携について今後、密に連絡を取りながら進めていく。

9. 男女共同参画学協会連絡報告（高橋）資料：報 9

高橋男女共同参画・若手支援委員長より男女共同参画学協会連絡会について報告があった。

2016 年 10 月 8 日に男女共同参画学協会連絡会シンポジウムを開催する予定で準備が進んでいる。

10. 生物科学学会連合連絡会報告（佐藤）資料：報 10

佐藤氏より生物科学学会連合連絡会について報告があった。

役員の改選について次期代表候補の推薦の連絡が 2016 年 7 月 15 日に送られてくる予定である。2020 年は日本開催（長崎国際大学で開催予定）となるため予選会場の確保等が年々難しくなっていることから、各団体に予選会場の確保の協力をお願いしたい。規模としては大学の講義室（数十名程度）など。2020 年の日本開催に向けて、問題作成などの協力をお願いしたい。日本生化学会と日本分子生物学会との合同大会を各団体と協賛または共催で開催したい。

11. IUPAB・ABA 関連報告（野地）資料：なし

野地氏より IUPAB・ABA 関連について報告があった。

国際関係に関して年会のシンポジウム、Application of Biophysics に関して審議する点がある。

12. 賞・助成金推薦委員会報告（永井）資料：報 12

永井氏より賞・助成金推薦委員会について報告があった。

第 13 回江崎玲於奈賞の推薦について、野地博行 氏、原田慶恵 氏の 2 名を推薦した。賞の採択について、第 2 回日本光生物学会協会 協会賞を沈 建仁 氏、第 24 回木原記念財団学術賞を前島 一博 氏、平成 28 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」及び「若手科学者賞」を須藤 雄気 氏、第 6 回育志賞を山本詠士 氏が受賞した。

13. 特許の取り扱いに関する HP 修正報告（古谷）資料：報 13

古谷氏から特許の取り扱いに関する HP 修正について報告があった。

平成 23 年度の特許法の改正に対応するため、特許の取り扱いについて日本化学会のページを参考に修正を行った。日本化学会からは承認済みである。

14. 滞納 3 年以上の会員への督促結果報告（古谷）資料：報 14

古谷氏より滞納 3 年以上の会員への督促結果について報告があった。

前回理事会で除籍候補者をリストアップされ、督促メールを出した結果、4 月 20 日現在正会員 1 名、学生会員 2 名が会費を納入、正会員 1 名、学生会員 1 名が退会した。

15. 地区報告

15-1) 北海道支部 （小松崎）資料：なし

小松崎氏より北海道支部活動について報告があった。

平成 28 年 3 月 14 日に日本生物物理学会北海道支部会を北海道大学薬学研究院にて開催

した。一般演題 15 題、日本生化学会北海道支部会との合同シンポジウム（英語）4 題（Oxford 大学 Juha T Huiskonen 准教授の講演を含む）から構成され、104 人を越える参加者があった。北海道大学理学部化学科 学部 4 年（学年は受賞当時）構造化学研究室 瀧下俊平さん、大学院情報科学研究科 脳機能工学研究室 / 北海道大学 電子科学研究所 光細胞生理研究分野 修士 1 年山口和志さん、生命科学院 細胞機能科学研究室 修士 1 年 大浦真さんがそれぞれ発表賞を受賞した。

15-2) 関東支部 (佐甲) 資料：報 15

佐甲氏より関東支部活動について報告があった。

3 月 10 日、11 日に関東支部会が群馬・桐生で日本生物物理関東支部会が開催された。参加者は 100 名程度。学会からの補助金を学生アルバイトおよび旅費等に使用した。

15-3) 中部支部 (古谷) 資料：なし

古谷氏より中部支部会活動について報告があった。

日本生物物理中部支部会が岡崎コンファレンスにて 2 月 29 日に開催された。今回初めて金沢から 10 名以上の参加者がいた。学会からの補助金は遠隔地の参加者の旅費支援に使用した。

その他

特になし。

審議事項：

1. 平成 29・30 年度会長候補の選出（中村）資料：議 1

会長候補について、原田慶恵氏、神取秀樹氏、由良 敬氏の 3 名が選出された。

2. 平成 28 年度事業計画（案）（中村）資料：議 2

学術誌・学術図書の発行において Applications of Biophysics の公開および拡充、学術・科学技術に関する研究発表において第 54 回日本生物物理学会年会の開催、人材育成において男女共同参画・若手支援活動、関連学術団体との連携及び協力として生物科学連合への参画、日本学術会議生物物理学分科会、IUPAB 分科会への協力、日本物理学会、日本顕微鏡学会との連携協力、国際的な研究協力の推進において 19th IBC イギリス・エジンバラ開催支援、普及啓蒙活動において筑波年会における市民講演会（11 月 5 日に東京大学 駒場キャンパス）、女子中高生夏の学校及び関西科学塾への協力、物理チャレンジ、国際物理・生物オリンピックへの協力、理事

会・総会・委員会等において TV 会議等で開催していく。IUPAB の開催において日本に誘致するのかどうか。また誘致する場合は開催に向けて 2016 年夏から活動を開始する予定である。事業計画について問題がないことが確認され承認された。

3. 平成 28 年度予算（案）（佐甲・寺沢）資料：議 3

収入については変更なし。支出の学術推進事業のグローバル化推進費として 100 万円の予算を割り当てることに前回の理事会で承認されたため変更。BPPB 誌の無料キャンペーンに 100 万円の予算を割り当てることに前回の理事会で承認されたため変更。アブストラクトを魅力的に追加の 2 件（8 万円）の費用を追加。業務委託費の司法書士費用 5 万円を追加。通信電話費において、会長室電話代として 3,000 円を追加。増減額が 797,950 円の黒字。予算案について、問題がないことが確認され承認された。

4. 出版委員会関連議題

4-1) BPPB 編集委員会より無料キャンペーンについて （永井）資料：議 4-1

2016 年、2017 年総額 100 万円を使用し、無料キャンペーンを行う。すでに投稿済みのものに関してはどのように取り扱うかについて、今後投稿数を増やすための措置として行いたいため、これから投稿される論文について使用したい。アナウンスについてはホームページにアップロード及びメールで行う。

その他、問題がないことが確認され承認された。

4-2) BPPB 編集委員会より欧文誌活性化に関する提案書 （石渡）資料：議 4-2

論文の要旨を魅力的にするために、さらに 2 編を追加するために 8 万円の予算を申請したい。問題がないことが確認され、8 万円の予算を当てることで承認された。

4-3) HP 委員会よりサーバー移設について （北尾）資料：議 4-3

OS のサポートが切れるため（2017 年 3 月）、OS のアップグレード等を行う。移設費用等細かい変更があった。

問題がないことが確認され、承認された。

5. Application of Biophysics の HP 掲載について（永井）資料：議 5

新技術が製品に結びついている技術を紹介しており、企業から 1 ページ分広告媒体として使用できる。一件、10 万円の費用で永年掲載。英語のみものは日本語バージョンを作成次第、日本語の紹介文を日本語ページに掲載するが、それまでは英語バージョンを日本語ページに掲載す

る。商品化に繋がっている案件であれば推薦していただきたい。

その他、問題がないことが確認され承認された。

6. 男女共同参画若手支援関連議題

6-1) 生物物理若手の会夏の学校奨助金について (大上) 資料：議 6-1

夏の学校：合宿形式で集まって勉強および親交を深める会。年々参加者が減っているため、参加者を増やしたい。旅費等の補助を行い、参加しやすくするために補助金として 20 万円を申請したい。熊本震災を考慮し関連地域の学生の支援も考えている。

問題がないことが確認され、承認された。生物物理学会のホームページから若手の会へのリンクが分かりにくくなっている分かりやすくしたほうが良い。各理事の先生方も周辺研究室、自身の研究室の学生に参加を促していただきたい。

7. 熊本地震で被災された研究者への支援について (中村) 資料：議 7

生物科学学会連合の中野代表より、生科連として最も役に立てることは何かを見極めたい、そのために各団体にご協力いただきたいという旨の連絡があった。

会長、副会長に一任することで承認された。

8. 分子生物学会と生化学会との合同大会について (佐藤) 資料：議 8

2017 年 12 月 6 日～9 日に合同大会が開催される。合同大会について共催または協賛として参加する。共催にしてしまうと日本生物物理学会年会を合同大会と一緒に開催する意味になる。しかし、熊本年会の開催が危ぶまれている点を考慮すると共催の可能性もある。協賛してプログラム編集委員になり、生物物理のセッションを設けて宣伝を行う。生科連には 25 学協会もあり、両学会がどのような運営を計画しているのかを確認する必要がある。

結論を出さず両学会に情報提供を依頼し 6 月の理事会で決定する。回答書は 5 月末日が締め切りであるので、協賛もしくは共催を考えているがもう少し議論する必要があると回答する。仮に共催の場合は、現在の熊本年会の実行委員が担当するのではなく、別の方に対応していただく。

9. 日本光生物学協会招待講演・奨励賞候補者推薦について (永井) 資料：議 9

日本光生物学協会は、隔年で招待講演・奨励賞を募集しており、今回で 3 回目。

推薦者を神取氏にお願いし、神取氏が推薦した方を学会の推薦者とする。

10. 年会における国際交流促進について (中村) 資料：なし

筑波年会で韓国、中国、オーストラリアとの国際シンポジウムを開催予定である。

問題がないことが確認され、承認された。

11. 平成 28 年度総会シンポジウムについて（野地）資料：なし

総会シンポジウムの狙いは木下一彦氏の追悼として一分子計測を主とした研究者の講演および一分子生物物理の発展を期待できる若手の方からの講演を行う予定。

12. 罰則規定（除名）について（中村）資料：議 12

定款はこのままとして、細かい規則は設定しない
問題がないことが確認され、承認された。

13. 定時社員総会議案について（中村）資料：議 13

事務所を大阪府吹田市に置くことになっていたが、京都府京都市へ変更する。このように変更することで、会長室が変わる毎に定款を変更する必要がなくなる。定款第 3 章第 5 条の変更について、臨時社員総会が社員総会に該当してしまう恐れがあるので、社員総会を定時社員総会に変更する。最終決定は定時社員総会で行う。

問題がないことが確認され、承認された。

連絡事項：

定時社員総会及び次回理事会日程について

2016 年 6 月 18 日（土）

平成 28 年度定時社員総会：13:00～14:00

平成 28 年度第 1 回理事会：14:00～17:00

開催場所：大阪大学生命機能研究科ナノ棟 3 階 会議室

男女共同参画・若手支援委員会および出版委員会についても会議室の予約を行う。実際に行うかは各委員会で決定する。

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 16:00 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 28 年 5 月 27 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 27 年度第 5 回理事会

代表理事 中村春木 (印)

監事 有坂文雄 (印)